



# 帯郭槽軸部修正 GULAF No.1

昭和28.12.26  
完成



この図は、帯郭槽の軸部修正の計画を示すものである。修正後の軸線は、元の軸線（破線）に対して、右側へ若干のずれが生じている。これは、地形の凹凸や地質の条件に合わせた修正である。修正された軸線は、実線で示されている。また、修正前後の境界線や施設の位置も詳細に記述されている。修正の理由として、排水の効率を向上させること、および周囲の環境に配慮した設計が挙げられる。また、修正後の軸線は、元の設計より若干の長さが増していることが確認される。

修正の具体的な内容としては、左側の区画から右側の区画にかけて、軸線を段階的に右側に移動させている。これは、地形の傾斜や既存の構造物との干渉を避けるためである。また、修正後の軸線は、元の設計よりも若干の余裕を確保している。これは、将来の地盤沈下やその他の不測の事態に対応するための配慮である。

なお、修正後の軸線は、元の設計の軸線に対して、若干のずれが生じている。これは、地形の凹凸や地質の条件に合わせた修正である。修正された軸線は、実線で示されている。また、修正前後の境界線や施設の位置も詳細に記述されている。修正の理由として、排水の効率を向上させること、および周囲の環境に配慮した設計が挙げられる。また、修正後の軸線は、元の設計より若干の長さが増していることが確認される。

この図は、帯郭槽の軸部修正の計画を示すものである。修正後の軸線は、元の軸線（破線）に対して、右側へ若干のずれが生じている。これは、地形の凹凸や地質の条件に合わせた修正である。修正された軸線は、実線で示されている。また、修正前後の境界線や施設の位置も詳細に記述されている。修正の理由として、排水の効率を向上させること、および周囲の環境に配慮した設計が挙げられる。また、修正後の軸線は、元の設計より若干の長さが増していることが確認される。